

# 平成 25 年度 第 1 回 恵那市総合計画推進市民委員会

日時：平成 25 年 7 月 30 日（火）

午前 9 時 30 分～

場所：恵那市消防防災センター

- 
- 1 委嘱書の交付
  - 2 市長あいさつ
  - 3 会長・副会長の互選、あいさつ
  - 4 会議の公開、会議録の公表について（確認）
  - 5 議事
    - (1) 恵那市総合計画について
    - (2) 市民意識調査結果について
    - (3) 推進市民委員会による総合計画後期計画の進行管理について
    - (4) 総合計画推進市民委員会部会について
  - 6 全体会閉会
- 

欠席者 近藤良三 原田光子 三宅毅明

## 1 委嘱書の交付

委嘱書を交付する。可知市長が席に向いて交付する。

[ 市長から委嘱書を交付 ]

■事務局（進行） 2年間の任期、よろしくお願いします。

委員の皆さまのご紹介は次第の裏面の名簿、本日出席の職員も名簿があるので紹介に代える。

## 2 市長あいさつ

■市長 昨日は大変な雨だった。恵那市では警報が出なかったが、天気が良ければ熱中症、雨なら豪雨の心配があり、地球温暖化の影響かと思う。

29名の委員に委嘱書を交付した。委員になっていただきありがとうございます。2年間よろしくお願いします。

今日は資料がたくさんある。総合計画の冊子がある。平成23年から5年間の市の事業の計画書だ。今まで2年間行い今年3年目だ。あと3年間後期計画に沿って恵那市の発展のため事業を進めるといふものだ。全体で600ほどの事業がある。その計画に沿っているかどうか、皆さんのチェックをいただくのがこの市民委員会の目的だ。恵那市がどういう方向に進んでいるか皆さんの目で見てほしい。

恵那市の経営という冊子がある。総合計画の進捗状況を毎年分かりやすく示す。目指す値を設定し、数値化して、どれだけ達成できたか、なぜ達成できないかを示している。恵那市の経営の中には、総合計画の数値目標以外に行財政改革の進捗状況、財政状況についても記載している。各部課の目標を毎年作っているがその目標について、どれだけ達成しているかも冊子に記入している。平成19年から毎年発行して今年で7冊目になる。

今日が25年度初めての委員会なので、この後いろいろ説明した後、3部会で検討いただく。副市長、各部長がすべて出席している。部会には担当部長が入って皆さんの質問に答える。

2年間よろしくお願いします。

■事務局（進行） 第1回推進市民委員会なので、会長、副会長を選出する。設置要綱第5条第2項により、会長は委員の互選とし、副会長は会長が指名するという規定になっている。会長の選出についていかが取り計らったらよいか。

■委員 昨年に引き続き岐阜大学地域科学部教授の有本信昭委員にお願いしたい。

■事務局（進行） 推進委員会名簿2の有本信昭委員、岐阜大学地域科学部教授の推薦があった。委員の皆様、承諾いただけるか。

[ 拍手にて承諾 ]

■事務局（進行） では、有本委員は会長の席についてほしい。

副会長は会長が指名する。会長から指名してほしい。

■有本会長 重要な会議の委員をやらせていただだけでも有り難く思っているが、会長もということなので、有り難く思いながらお引き受けする。皆さま方と何年もお付き合いして大体顔も名前も知っているが、どなたがいいかと相談したら、市長と事務局の相談の上、21番串原協議会の三宅明委員にお願いしたいがよろしいか。

〔 拍手にて承諾 〕

### 3 会長・副会長の互選、あいさつ

■事務局（進行） 会長、副会長のあいさつを頂戴したい。

■有本会長 先ほどの言葉で済ませた。時間を節約したい。副会長にお願いする。

■副会長 そうそうたる方々の中で恐縮だが、合併当初から関わってきたので、恵那市の将来を皆さんと一緒に進めていきたい。有本先生を補佐していきたい。協力してほしい。

### 4 会議の公開、会議録の公表について（確認）

■事務局（進行） 会議は公開、会議録は公表するがよろしいか。

では、議事に入る。いくつか事務局から一方的に説明することになるが。会長に進行していただく。

### 5 議事

(1) 恵那市総合計画について

(2) 市民意識調査結果について

(3) 推進市民委員会による総合計画後期計画の進行管理について

■有本会長 本日は議事が5つある。説明はできるだけ簡潔に短い時間でお願する。(1)

(2) (3)を一括して事務局から説明をいただく。

〔 事務局による説明 〕

■有本会長 これから10分ほど質疑を行う。私から補足する。10年間の計画を決め、前期後期の5年の計画も総合計画審議会で作り直してきた。それから進行管理は市民委員会と名前を変えて毎年このような形で行ってきた。今年は後期の3年目で、皆さんは3、4年目で進行管理を市民の目でチェックする。今のご報告のような作業スタイルでやっている。前年度から引き続きの委員の方は承知されていると思うが、新しく委員になられた方の中から分からないところがあれば、再度事務局から説明する。

ないようなので先に進む。議題4では時間を1時間ぐらい取る。5は短い時間で行う。

(4) 総合計画後期計画の達成状況と平成25年度主要事業について

■有本会長 事務局からパワーポイントで説明を行う。

〔事務局による説明〕

■有本会長 これから 11 時過ぎまで質問を受ける。

■委員 初めて参加する。6 つの柱があり、部会に分かれて話を進めるわけだが、私は教育部会なので、5、6 について話し合えばいいのか。

■有本会長 そうだ。これは全体会議なので、ほかの部会にいる人にもアピールすることなどについてこの場で発言してほしい。部会編成とそこでの役割についてはその後の議題で行う。今は達成状況と 25 年度の事業について質問してほしい。主として部会ではそのことについて議論してもらおう。

■委員 私も初めてでよく分からないが。意識調査で興味深いデータがたくさんある。総体としてのパーセンテージの説明はあったが、よく見ると、世代間の相違がものすごくある。特に定住促進や人口減少がものすごく大きな問題になっているときに、このアンケートの母集団を全体的に見ると、60 代以上が 50% 以上だ。その中でも、逆に 20、30 代にも答えてもらっているが、あまりに世代の意識の格差が激しすぎる項目がたくさんある。それをどうこれから市政に反映するかが重要な問題である。

それから、概要版の 20 ページにマトリックスがある。これを、今の考えを踏まえてどう分析したらいいかは非常に難しい問題だ。これを 4 つに分けて、重要課題、継続推進等々となっているが、満足度を見ると真ん中に集中している。ということは、市民の意識からして、満足度を答えているかもしれないが、満足度を答える場合はたいてい不満な方が一生懸命答えるのだが、よく分からない、理解できないというデータが真ん中に集まるのではないかと思う。また、縦軸の「重要度」は、重要であるかどうかより関心があるかどうかのものすごく影響する。典型として、満足度だと真ん中あたりで重要度がきわめて低いと言われているのが、男女共同参画の取り組み。それがほとんど重要じゃないと捉えられてしまう。

この辺を踏まえ、重点課題が 11 あると言われているが、こういう分け方でいいのかわるか、大きな疑問がある。

■有本会長 関連して、市民意識調査の読み方について類似の意見、質問はあるか。

■事務局 60 代以上の方が多いということだが、この調査自体が無作為抽出で 2500 人を選んでいる。そうすると、アンケートを送る人も、恵那市の人口の割合で高齢の方が多いので、高齢の方に多くアンケートがいきわたる。また、回答率も、行政の関心のある方が若い方が少ないということだと思うが、戻ってくる率も高齢の方の方が多い。若い方の意見が少ない状況になっている。若い人の意見も重要なので、この調査では若い方の意見があまり反映していないが、別の分厚い報告書では、年代別の分析もしている。数は少ないが年代別になっている。また、地域別の集計もしてある。母集団が小さい串原、飯地のよ

うな地域では、統計上信頼できるというまではいかないが、参考程度に見ていただきたい。

また、調査の方法は、送る年代ごとに数を決めて送るような調査の仕方もあると思うが、過去の年度と比較しながら行っているということもあり、調査の方法を変えるとすれば、新しい総合計画の28年度から検討したい。

■委員 調査の方法ではなくて、そもそも無作為抽出でこういう調査をやるとこうなるということは、大体分かるわけだ。問題は、調査結果はあくまで客観的なものなのでデータとして使わなければいけないので、その使い方によると思う。これは昨年度の調査かもしれないが、ある一瞬のところをスポンと切ってその調査結果をどのように使うかは難しい議論になると思う。私も来年還暦を迎え50%以上の方に入ってしまうが、数値的にはその人たちがメジャーではあるが、そのメジャーの意見を通す市政をするのか、もう少し若年層や女性等々に光を当てた施策をするのかによって総合計画が根本的に変わってくる。市の行政の方はそういうことも踏まえてやっていると思うが、単純に無作為抽出のデータを基にデータを作るというのは、重点施策が何であるかという決め方に関して、難しいところがあるのではないかと思う。

■有本会長 年齢階層別に分母を取りそこから全部集めようとする、辞退された人の代わりに新たな人を集めて、年齢階層別のある一定数を確保するまでアンケートの依頼を繰り返せばいいが、そうすると時間が延びるのでそれで仕方なしにということになってくると思う。

■委員 ただ、20代の方も100名以上答えているのでデータ数としてはそんなに問題はないと思う。ただ、この分厚い方を読むと、20代と70代で根本的に数値の違う項目が多くある。それをどう理解して市政に反映させるかは非常に重要な問題だ。

■委員 調査は調査だからやむを得ないと思う。これをどう読むかということに、市の行政、課長以上がどういう感想を持つかだ。それと、もう一つ、各部門の中の細かい分野でやっている。そうすると担当者はそれだけを気にした文章になっていることが多分にある。課長以上の人に、全体像をどう見るかという観念がほしい。

■委員 初めて参加する。移住してきて1年しか経たない。男女共同参画は大事なことだと思う。市の職員でもここには女性は一人もいない。公募の委員も女性で応募したのは3人だ。そういう意味で、意識の中ではなくてもいいというような、後ろの方であればいいということだと思う。こういう場にも女性をたくさん出してほしい。施策を見ても、よく分からない。パパママ学級に父親が参加するから男女共同参画の意識を高めるのか。ちょっと違うと思う。大きな概念的なことをやってもいいと思う。教育長に聞きたい。恵那市の学校は男女混合名簿か。別名簿か。そういう意識はないか。

■教育長 名簿は校長の判断で、市で指示は出していない。

■委員 でも世の中の風潮では混合名簿が普及している。男が先、女が後ということは違

うと思う。そういうところから進めてもいい。そういう小さな施策から、男女共同参画も変わっていくと思う。そういう意識を持ってほしい。

■委員 次期の総合計画が2年半後に立ち上がる。総合計画推進市民委員会が次期の総合計画にリンクするのか。

■有本会長 事務局。

■事務局 当委員会は、進行管理を進める。ただ、現在の総合計画は27年までなので、それまでの進行管理はこの委員会で行うが、29年からの新総合計画の着手に26年度からかからないといけないと考えている。この推進委員会で進行管理、現在の総合計画の検証をしながら、この委員会の皆さんに、総合計画の策定については条例で設定した審議会という形をとって、来年度以降再委嘱し、それまでの状況を理解している皆さんの中で計画策定していただきたいと考えている。皆さんの中で、いろいろな役職で任期があると思うが、今年度から27年までの委員として一緒にやってほしい。おいおい推進委員会の中で説明していく。

■有本会長 ほかに。なければこれで打ち切る。

#### (5) 総合計画推進市民委員会部会について

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■有本会長 質問はあるか。ないので、次に進む。

その他、何か発言はないか。

ないので、最後に私から。年3回、時間は2時間から2時間半になっている。議題の数、内容が多く、この場で皆さん方から活発な議論をいただくことにならない。委員長をやっている時々運営がなっていないと叱られる。難しい役割を仰せ付かっている。皆さんにご協力をいただくという意味も含め、この場は全体的な確認に集約してもらおうと、円滑に進められると思う。副委員長と共に努力するが、協力をお願いしたい。

副委員長からあいさつを。

■副委員長 次の総合計画に明確に私たちも関わっていくということだ。次の10年が恵那市の将来にとって大きなことになると思う。リニアを踏まえ、この地域がどうあるかを中心に、今の進行管理もだが、併せて考えてほしい。

■有本会長 全体会議を終わる。

■事務局（進行） これで全体会議を終わる。

[ 閉 会 ]